



コスモスだより

【ニューストピックス】

手術支援ロボットに懸ける ダヴィンチ 地域医療と病院の未来

●新年のご挨拶

【お知らせ】

土曜診察が変更になりました
マイナ保険証をご利用ください
市民公開講座のお知らせ
患者サロンのお知らせ
イベントレポート
＝医療従事者向け情報＝
第11回こすもす懇話会のお知らせ



病院の理念 地域住民を支える良質な医療の提供

当院は、「かかりつけ医」からの紹介状を持って受診いただくことに重点をおいた

【紹介受診重点医療機関】で、より専門的な検査や治療を重点的に行う役割を担っています。

かかりつけ医
を持ちましょう

「かかりつけ医」と「市立貝塚病院」が役割分担を明確にし協力しあって、質の高い医療を提供できるよう努めています。まずは地域の診療所やクリニックの「かかりつけ医」を持ち、当院での受診が必要な場合は、できるだけ「かかりつけ医からの紹介状」を持参してください。

◆紹介状なしで受診された場合【選定療養費】が必要です。（初診時：7,700円／再診時：3,300円）

手術支援ロボットに懸ける ダヴィンチ 地域医療と病院の未来



手術支援ロボットは、より安全でより緻密な腹腔鏡手術を行うための医療ロボットです。日本では2012年に「前立腺がん」に対する前立腺全摘術に保険適用され、2018年には「食道がん・直腸がん・肺がん・子宮がん」など12の術式へ保険収適用が広がりました。その後も保険適応の疾患は増え続け、今ではがん治療の多くにロボット支援手術を行うことができるようになりました。当院でも、市議会の承認を得て手術支援ロボット『ダヴィンチ』を導入し、令和6年1月より診療を開始しています。



外科消化器外科
院長 長谷川 順一



泌尿器科 主任部長
副院長 能勢 和宏



産婦人科 主任部長
副院長 横井 猛



手術室 看護師長
手術看護認定看護師
島田 乃里江



外科消化器外科部長
岡野 美穂



麻酔科 部長
齋木 笑梨



産婦人科 医長
市川 冬輝



臨床工学室 副室長
臨床工学技士
前田 直紀

手術支援ロボット導入への課題を乗り越えた医師・スタッフの熱意

「大阪府がん診療拠点病院」としての役割と 病院の運営基盤となる採算面との板挟み

【長谷川】当院に手術支援ロボットが導入されて1年を迎えます。私が前任地で『ダヴィンチ』を使用していたこともあり、当院の院長に就任した令和4年に導入を提案させていただいたのですが、皆さんにはワーキンググループのメンバーとして、導入検討や導入準備・トレーニング計画などご尽力いただきました。

【能勢】私は着任してすぐに、長谷川院長からワーキンググループのお声を掛けていただきました。前立腺がんの手術は既にロボットが主流ですから、当院で前立腺がんを診断された患者さんは、当院での放射線治療か市外のロボットのある病院に紹介せざるを得なかったのが当時の状況です。大阪府がん拠点病院として、診断から治療まで一貫した診療ができない状況を変えなければと思いましたね。

【長谷川】しかし高価な機械ですから「採算に合わない」と、

実現には時間がかかりました。

【横井】長谷川院長就任以前からも検討されてはいたんですが、ロボットは腹腔鏡に比べて額が1桁違いますからね。更に消耗品も割高で保守点検費用も掛かります。その上、婦人科の手術は腹腔鏡と診療報酬は同じです。

【岡野】ロボット手術は泌尿器科から始めて、国内での導入から10年以上経った今でも、手術件数の半分は泌尿器科です。まずは泌尿器科での手術件数の裏付けがないと、当院での導入には踏み切れなかったと思います。

【能勢】前立腺がんの手術件数0件からの出発ですから、泌尿器科としても覚悟が必要です。実績を積み体制づくりのために、大学病院からロボット手術のエキスパートにも来ていただきました。ただこの導入は、地域の患者さんのためだけではありません。若手医師の確保など、病院の将来にとっても重要なことだと考えています。その重要性を発信することで、少しずつ動き始めたんだと思います。

当院での《ロボット支援下手術》の対象疾患及び実施術式

外科

●結腸がん ●直腸がん

ロボット支援下結腸悪性腫瘍切除術
ロボット支援下直腸切除術・切断術 など

産婦人科

●子宮良性腫瘍 ●子宮脱腫
※早期子宮体がん手術への応用も検討中

ロボット支援下子宮全摘術
ロボット支援下仙骨腔固定術 など

泌尿器科

●前立腺がん ●腎臓がん
●尿管がん ●膀胱がん

ロボット支援下前立腺悪性手術
ロボット支援下腎悪性手術
ロボット支援下尿管悪性手術
ロボット支援下膀胱悪性腫瘍手術 など

医師にとっても魅力のある病院であるために 手術支援ロボットは必須

【長谷川】「腹腔鏡でできるのであれば、ロボットを使う必要はない」という声もありました。外科や産婦人科では、既に高度な腹腔鏡手術を行っていましたからね。でも、これだけロボット手術が普及してきた時代に、ロボット手術ができない病院に若い医師が来てくれるのか……人がいてこそ医療です。「若い医師にとって魅力のない病院に未来はない」と話させていただきました。

【能勢】私は大学で学生指導もしていたんですが、学生はロボットとなると非常に熱心に取り組むんですよ。こうした機器を使うのが好きで上手な世代なんですよ。

【市川】私は医者になって11年目ですが、産婦人科のロボット手術をやらせていただいています。私より下の世代だと、診療科を問わずロボットを避けては通れないでしょう。当院の産婦人科は医師の数も多いですし、教育も非常に熱心だと自負しています。若い先生方への教育テーマは「腹腔鏡で子宮全摘ができるように」だったんですが、これからはロボット手術にまで広がられますから、少しでも早いタイミングで導入されて、本当に良かったと思っています。

【横井】私が大阪大学病院から当院に来て14年目。ちょうど大学病院でロボット導入のワーキンググループ立ち上げに関わっていた時期でした。「大学病院でやっている診療の全てを、ここ貝塚病院でできるようにする」との思いで、腹腔鏡手術も軌道に乗せましたが、ロボット手術に関しては半ば諦めていたんです。しかし今回、「急性期医療として手術を続けていくのであればロボット手術導入は必須」という強い思いが流れを変え、大学病院と同レベルの診療ができるようになったことを、実感しているところです。

手術支援ロボットは外科医師不足の救世主！？

【齋木】私は麻酔科なので、仕事の内容は変わらないのですが、手術に必要なスタッフの人数が減ることも大きなメリットだと感じています。腹腔鏡だと医師が3～4人必要でしたが、ロボットだと2人で済みます。医師のマンパワーが空けば、緊急手術や他の手術ができたり、外来や病棟管理にも手を回すことができますし、手術後に回されて

いた患者さん対応も早い時間に行えます。

【島田】看護師も2名は必要だったのが、1人だけでいい時間ができたので、とても助かっています。

【長谷川】外科医不足は深刻な状態になっていますから、ロボットが不足を補完して、必要な手術が継続できることはありがたいです。

【島田】ロボット手術に魅力を感じて、外科医が増えてくれるといいんですが。

【長谷川】実際、消化器外科医が20年後には半減すると言われてい一方で、泌尿器科を希望する先生は増えているんですよ。

【岡野】泌尿器科はロボット手術が標準治療なので、若い4～5年目の医師もロボット手術に参加できますから、外科医を目指す者にとっては魅力的なんだと思います。

歴史ある病院だからこそ設備面の課題を 創意工夫でクリアする

【長谷川】導入に際しては、設備面での課題もありましたね。

【前田】ロボットの重さに手術室の床が耐えられるか、電圧は足りるかなど、とても不安でしたよ。でも先生方の熱量がすごかったですから、何とかそれに耐えなければとの思いでした。結果的に電源施設を増設し、臨床工学技士も増員していただきました。ただ当院は手術室が狭いので、配置や配線を先生方や看護師さんと相談しながら計画したんですが、それこそセンチ単位です。

【島田】手術内容に合わせて手術室の機器を入れ替えますから、手術の度にロボットの出し入れと配線をして、毎回大変ですよ。

【前田】朝一番のロボット手術の準備で出勤時間が早くなって、家族からは「最近何があるの？」と聞かれましたがもう慣れました（笑）。

【能勢】電気を使う機器がどんどん増えて、機器も良くなっている反面、電源が入らなければ、彼ら臨床工学技士がいなければ手術ができない時代になりましたね。

【前田】腹腔鏡は複数台ありますが、ロボットは1台で替えるはありません。緊張感もありますが、それが我々臨床工学技士のモチベーションにも繋がっています。

■ロボット導入がチーム医療の新たな風土を作る

【齋木】ロボット導入にあたって、職種を超えたコミュニケーションが自然に取れる、チーム医療の新たな風土ができたと感じています。ロボットに限らず、安全で質の高い手術を提供するために重要な変化ですね。

【島田】ロボット運用の問題解決と標準化を目指して、まず、看護師のロボットチームを作りました。診療科を超えて成功例や課題を常に共有し、それを医師にも情報提供して検討していただいたんです。

【齋木】ロボットチームの看護師さんが、医師や麻酔科も巻き込んで、新たなチームに広がっていく感じですね。

より精密で安全な手術を可能にする手術支援ロボット「ダヴィンチ」

- 鉗子の先端部分が手首・指先のように自由に動く：腹部の深部、細部に鉗子が届き操作しやすい
- 3D画像：実際に術野を見る感覚に近い遠近感
- ズーム機能：自在に拡大し細部まで鮮明に見える
- 手の動きを縮小して伝える：緻密な作業が可能
- 手ぶれ防止機能：手先の震えが鉗子に伝わらない

■難しい症例にこそ生きる、ロボットの機能

【長谷川】市川先生、ロボット手術はどうですか？

【市川】簡単な症例であれば、腹腔鏡と変わりはないですが、子宮内膜症の癒着がひどい場合など難しい症例はロボットのメリットを感じます。鉗子の先が自由に曲がって深部にも入り込み、ピタッと手が止まって精密な動きができる。イメージ通りの術野で展開できますから。

【長谷川】体内に入り込んだような没入感もありますよね。ロボットによる器具の操作性の高さは、術者にとって非常にありがたい。それによって可能になる緻密な手術は、患者さんにとってもメリットになります。

【岡野】腹腔鏡だと助手とカメラマンが扱っていた器具を、ロボットなら術者1人で操作できるのも大きなポイントです。術者の思う所にカメラが向かないと術野が見えないし、助手に指示を出すにもモニターを見ながら言葉で伝えるしかなく、歯がゆい時も多々あります。更にロボットだと、モニターに線を書いて執刀医と共有できますから、視覚的に指導したり相談することもできるんです。

【横井】ロボットのメリットの一つは、腹腔鏡に比べて習熟期間が短いことです。腹腔鏡の鉗子はマジックハンドのようなもので真っ直ぐですから、結紮・縫合も難しく、使いこなすには相当の訓練が必要ですが、ロボットだと圧倒的に短期間でできるようになります。

腹腔鏡だとそれぞれの医師が自分流を確立していますが、今回は一斉に積み上げるわけですから、統一した「貝塚流」にすることができました。

【島田】当初、3科同時導入はハードルが高いと思っていたんですが、逆にメリットだったと感じています。私たち手術室看護師は、医師が最大限のパフォーマンスを発揮して安全に手術ができるよう、医師や他職種と共にチームとして協働しています。懸命に取り組む先生方の姿は、患者さんにつながることを知っていますから、貝塚病院だからと来てくださる地域の患者さんに、最善の医療が提供できることを心から嬉しく思っています。

■術者の技術を裏付けるライセンス制度

【岡野】習得が早いとはいえ、ロボットで執刀するにはライセンスが必要で、疾患によって異なるのですが、外科や婦人科だと「内視鏡技術認定医」であることが必須です。後進を育てるレベルの腹腔鏡のスキルがあることが前提なんですよ。

【長谷川】まずはオンラインで勉強して、シュミレーターで機械の使い方を学び、動物を使った手術訓練を経てライセンスを取得します。その後も実施施設の見学や手術の指導を受けて、ようやく実施の準備に入るわけです。

【能勢】見学には医師だけでなく看護師や臨床検査技師もチームで参加して、準備やスタッフの動きを学びました。

■ロボット手術で信頼される病院を目指して

【長谷川】患者さんの反応はどうですか？

【市川】テレビで見た最先端の手術を受けられて嬉しいという方もいらっしゃいました。ロボット手術の執刀はライセンスが必要で、訓練を積んだ医師が執刀すると伝えたと、安心されていましたね。

【能勢】1例目の貝塚市民の患者さんは、貝塚病院で手術できることをとても喜んでおられました。ただ、ロボット手術としての他院からの紹介事例はまだないです。

【横井】患者さんがクリニックの医師に「貝塚病院で」と言われて、紹介で来られる例が沢山あります。ロボット手術も、「貝塚病院のロボット手術で」と言っていただけのことを目指したいですね。

【長谷川】では最後に、ダヴィンチ導入から大きなトラブルもなくロボット手術ができたことをこの場を借りて深く感謝いたします。今後も、患者さんの声を聞いて、より安全で効果的な手術治療法をしていきたいと思いますので、皆さんこれからお願いいたします。



貝塚市病院事業管理者
片山 和宏

新年のご挨拶をさせていただきます。あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は、1月の能登半島地震、8月には宮崎県沖地震、また各地に大雨による災害が続発し、まさに自然の猛威に翻弄された1年だったと思います。皆様も、もしもの事態に備える大事さを痛感されたのではないのでしょうか？

自然災害ほど劇적ではありませんが、日本の社会は確実に高齢化が進んでおり、2040年問題（75歳以上の人口増加＋75歳未満人口減少）が話題になるなど、医療を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。高齢者に多い疾患に対応する体制を整えるとともに、労働人口減少を見越した効率化は避けてはとおることができません。当院も、高齢者施設との連携をより深めるとともに、院内デジタルトランスフォーメーションを進めるなどの効率化を促進していきたいと考えております。

高齢化社会への対応としては、予防医療も大きな役割を果たします。コロナ感染に対し、ワクチン接種が罹患率低下、重症化予防に果たした役割が大きいうちに、疾患の早期発見・早期治療のためには、健診や人間ドック等の普及も重要です。こういった方面でも、当院として出来ることを充実させていきたいと考えています。また病院ではなかなか対応できませんが、高齢化による体力低下や認知機能低下を予防するためには、日常生活に運動を取り入れる等の工夫も有効です。

本年も市民の健康と当市の発展のために努力していきたいと存じます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



院長 長谷川 順一

新しい年の幕開けにあたり、皆様と共にこの佳き日を迎えられることを、心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、医療を取り巻く環境は大きな変化を遂げ、社会全体の構造変革が進む中で、医療機関としての役割がますます重くなりました。私たち市立貝塚病院は、地域の皆様に信頼され、必要とされる病院であり続けるために患者さん一人ひとりに寄り添う医療の提供と共に、次世代に向けた環境整備に注力して参りました。安全で効果的な医療をお届けできるよう、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」、前立腺肥大症に対する「水蒸気を用いた低侵襲治療」、乳がんに対する「ラジオ波焼灼療法」、緑内障に対する「レーザー治療法」等、昨年も多くの最新の取り組みを導入しました。今年も引き続き、患者さん中心の支援を進めるため、連携医療機関の皆様とさらに強力な協力関係を築いてまいります。

今年は巳年です。蛇は、医学のシンボルとして古くから使われてきました。その理由は、ギリシャ神話に登場する医学の神アスクレピオスが、常に蛇が巻きついた杖を持っていたことに由来しています。蛇はたくましい生命力があり、脱皮をするたびに傷のない姿に戻るといった性質から、治療、再生のシンボルとされています。WHO（世界保健機関）や日本医師会のロゴマークには、この蛇が使われています。さて、当院のロゴマークは貝塚市の花「コスモス」をイメージし、地域の皆様を温かく包み込む病院の姿を象徴しています。今年も当院の理念『地域住民を支える良質な医療の提供』を実践していくために、全職員が一丸となって邁進する所存です。どうぞ、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寒さ厳しい折、どうぞご自愛ください。本年が皆様にとりまして、健やかで幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

土曜診療が変更になりました

今年1月から、土曜診療の診療体制が変更になりました。
当院は、令和5年7月に「紹介受診重点医療機関」に指定されており、地域の医療機関との連携強化や外来機能の明確化に取り組んでいます。ご理解とご協力をお願い致します。

◆土曜日は、内科・外科の救急 《二次救急告示》のみ対応

◎これまでの土曜日診療は、平日診療に変更または診療所への逆紹介で対応します。

※乳腺外科・婦人科の健診（毎月第2土曜日）は、継続して実施します。

マイナ保険証 をご利用ください



昨年12月に、現行の保険証の発行が停止されました。

※廃止後1年間は、現行の保険証が使用できます。
※マイナ保険証をお持ちでない方には、保険証の代わりとなる「資格確認書」が発行されます。

●**利用には、健康保険証利用登録が必要です**
当院受診時に受付で利用登録が可能です。その際は、「マイナンバーカード」と「利用者証明用暗証番号（4桁）」をご持参ください。
※事前登録にお困りの場合は、お気軽にお声掛けください。

市立貝塚病院市民公開講座のお知らせ

開催日時	テーマ	講師
3月11日(火) 14:00～15:00	おしっこの話 ～おしっこの事で悩むひとへ～	副院長／泌尿器科 主任部長 能勢 和宏
5月22日(木) 14:00～15:00	診断時から始まる緩和ケア ～患者さんに寄り添う医療～	緩和ケア内科 医師 川上 寛明 がん看護専門看護師 白石 裕実

【会場】市立貝塚病院 7階講義室 ※マスク着用。当日、発熱のある方はご参加いただけません。

【申込・お問い合わせ】

- 地域医療連携室 ☎ 072-422-5865
- 1階総合案内
- FAX 受付：072-439-6061

（お名前・連絡先・講座テーマ・日程をご記入のうえ送信してください）



《手話通訳あり》

手話対応のご希望は
開催の1週間前までに
ご連絡ください。



無料
要予約

患者サロン（がん患者・家族懇話会）のお知らせ

「患者サロン」は、ご本人やご家族などが持つ様々な悩みについて、語り合い交流する場。
参加された方々がリラックスできるひと時になれるよう、毎回テーマを決めて開催しています。
病院スタッフへのご質問もどんどん出してください！ 入退出も自由ですので、多くの方の参加をお待ちしています。

無料
要予約

開催日程	テーマ
2月12日(水) 14:00～15:00 途中退席可	個別相談会+もしバナゲーム 相談内容に合わせ、看護師・ソーシャルワーカー・リハビリ・栄養士・薬剤師の多職種が対応します。 「もしバナゲーム」では、カードを取捨選択しながら、自分が何を望んでいるのかをまとめていきます。「もしものための話し合い（＝もしバナ）」をする、そのきっかけを作るためのゲームです。
6月10日(水) 14:00～15:00 途中退席可	がん患者さんのためのリラックスストレッチ 心身の負担をやわらげリラックスできるように考案されたストレッチです。 無理のない動きと呼吸法で体と心を軽くして、毎日を心地よく過ごしましょう。

【対象】がん患者さんご家族など

【申込・お問い合わせ】

【会場】市立貝塚病院 7階講義室 ● 地域医療連携室 ☎ 072-422-5865 ● 1階総合案内



大規模災害訓練

2024年11月16日(土)
＜市立貝塚病院内＞

南海トラフ地震が発生すると、貝塚市では最大震度6弱の揺れと、死傷者約1,300人・建物全半壊約5,000棟の被害が想定されています。市立貝塚病院は、貝塚市地域防災計画の「災害医療センター」として位置づけられ、市の医療救護活動の拠点施設として、関係機関と連携して災害時における負傷者の救護に当たる役割を担っています。

このため、南海トラフ地震が発生したと想定し、災害対策本部の設置や模擬患者を使った負傷者のトリアージを行う災害医療訓練を実施しました。災害時には、官民問わず関係機関と連携して負傷者の救護にあたる必要があるため、貝塚市医師会・貝塚市歯科医師会・貝塚市薬剤師会・岸和田保健所・貝塚市消防本部・市危機管理課にも参加していただきました。また、患者役として河崎会看護専門学校の学生さんがボランティア参加していただきました。今回の訓練で浮かび上がった課題について、改善を図っていきます。



健康かいつか フェスティバル

2024年12月8日(日)
＜貝塚市役所新庁舎内＞



「市民健康まつり」が「健康かいつかフェスティバル」に名称を変更し1回目となる今回は、500名を超える市民が参加し大盛況でした。当院からは、各認定看護師による3コーナー「間食を見直そう／物忘れ相談／手洗いチェック」を設置。約300名が参加され、健康への関心の高さを実感しました。特に手洗いチェックは、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに手洗いへの関心が高まったこともあり、子供と一緒に家族で参加されていました。

クリスマス会

2024年12月18日(水)
＜市立貝塚病院 4階会議室＞



病院ボランティア『こすもす会』と看護局合同のクリスマス会が、5年ぶりに開催されました。今回は初めて、落語家の満腹亭楊枝さんをお招きし、楽しいお噺に会場が笑いに包まれました。恒例のちびっこ保育園の園児による出し物では、歌に合わせた手遊びや楽器遊びを披露。その可愛さに拍手が沸き起こり、会場がほっこりとするひと時でした。参加した患者さんから「楽しい時間が過ごせ、気分転換になりました」との声が寄せられる、心温まる会となりました。

医療従事者向け情報（地域連携ニュース）

第11回こすもす懇話会のお知らせ

当院では、年に1度、地域の医師会・歯科医師会・薬剤師会・施設ご担当者の皆さまとの連携強化を目的とした「こすもす懇話会」を開催しています。令和6年度は企画できませんでしたが、今回開催で11回目を数えます。

懇話会構成（演題等）は現在調整中です。決定次第ご案内状を送付させていただきますので、是非ご出席くださいますようお願いいたします。

【日時】5月10日(土) 15:00～17:00 【場所】貝塚市商工会議所大会議室

【内容】当院医師による講演 ※懇話会終了後、情報交換会を予定しています。

【申込・お問い合わせ】 地域医療連携室 ☎ 072-422-5865（代表）